

国際委員会(第25期・第1回)議事要旨

1. 日 時：令和2年11月12日(木) 14:00~16:00
2. 場 所：日本学術会議事務局大会議室(2階) ※オンライン併用
3. 出席者：高村委員長、佐野委員、白波瀬委員(WebEX)、日比谷委員、荒井委員(WebEX)、尾崎委員(WebEX)、後藤委員(WebEX)、梶田委員、小池委員(WebEX)、三枝委員(WebEX)
(事務局)：市川国際業務担当参事官、国際業務担当室員

議 題

(1) 役員 の 指 名 と 同 意

委員長より、副委員長として小池委員が、幹事として日比谷委員、後藤委員が指名され、それぞれ承認された。

(2) 第24期国際委員会からの申し送り等について

事務局より資料の説明後、第24期申し送りを踏まえて第25期国際委員会の審議を進めることが承認された。また、委員からの発言を受け、委員長より、ISC等、加盟国際学術団体においてさらに多くの日本学術会議の会員・連携会員が役員等に選出され、活躍するのを支援する方策や、日本学術会議の二国間交流の在り方などについても国際委員会で審議していく必要がある旨の発言があった。

(3) 国際委員会分科会について

事務局からの資料の説明後、審議が行われ、第25期に国際委員会に単管として設置すべき分科会について承認された。分野別委員会との共管となる国際学術団体の国内対応委員会については、国際委員会の役割等についての意見交換が行われ、委員からは、引き続き25期の設置状況を確認しながら、過去の経緯を見定め、現在の活動を評価し、今後の方針を決めていくことが国際委員会のつとめではないかとの発言があった。

(4) 国際業務に参画するための特任連携会員の推薦について

事務局より資料の説明後、承認された。なお、委員から、これまでに比べ国際学術団体の要職に40代前半等若い研究者が就く傾向がさらに強まっており、25期には国際学術団体の理事等に会員・連携会員でない者が就くケースがさらに増え、特任連携会員の推薦の必要性が高まるのではないかとの指摘があった。

(5) その他

委員長から、日本学術会議の幹事会として今回任命問題については一貫した立場で対応しているが、併せて学術会議がより良くその役割を果たしていくために改めて活動の在り方を見直していくことも必要であり、井上科学技術政策担当大臣に活動の在り方の検討状況を、年末を一つの目標として報告することになっていることが述べられた。

委員からは日本学術会議の国際活動の強化を検討するにあたり、オンライン会議を活用して国際委員会の開催を増やすことや、提言の英語等での発信の重要性や広報の強化等について意見が出された。

最後に事務局より、メール審議の実施にあたり、委員及び事務局担当者間で連絡先を共有することにつき確認を行った。

以上